

★学校の教育目標	「未来を創造する子」 ○自ら考え学ぶ子 ○思いやる心を持ち、共に生きる子（重点目標） ○健康でたくましい子	★重点計画の概要
★目指す学校像（ビジョン）	○確かな学力：自ら考え学ぶ子 「課題発見解決力」「表現力・発信力」 ○豊かな心：思いやる心を持ち共に生きる子 「認め合い」「自己肯定感」「自己開示力」「対人力」「豊かな感性・創造性」 ○健やかな体：健康でたくましい子 「健康な体・行動力」「社会貢献力」	第4次日野市学校教育基本構想「すべての“いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく力」の教育理念を基に、「地域と共に歩み、安心できる学校づくり」プロジェクトを推進し、みんなに居場所や出番がある地域の学校をつくる。
【目指す児童像】		
【目指す学校像】	みんなに居場所や出番がある地域の学校 ◆すべての“いのち”を守り、輝かせる教師 ◆児童一人一人を大切にしたい温かい学級集団をつくる教師 ◆地域と協働し、地域をステージとした、主体的で対話的な深い学びを創造できる教師 ◆生活科・総合的な学習の時間や特別支援教育の専門性や技能を身に付けた教師	
【目指す教師像】		

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	学びの羅針盤・創造変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動し、やり抜く	一律一斉の学びから自分に合った多様な学びと学び方を習得させる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童が主体性を持ち、自らの学習課題に深く関わろうとする意欲を高めさせる。 学力調査、ワークテスト等の結果分析による、指導法の改善、授業力向上を図り、個別最適な学び、協働的な学びの実践をする。 	3	4 自分の考えを書き、読ませて伝える準備を設定し、児童が自己評価を行う授業に取り組んだ教職員が90%以上 3 自分の考えを書き、読ませて伝える準備を設定し、児童が自己評価を行う授業に取り組んだ教職員が80%以上 2 自分の考えを書き、読ませて伝える準備を設定し、児童が自己評価を行う授業に取り組んだ教職員が70%以上 1 自分の考えを書き、読ませて伝える準備を設定し、児童が自己評価を行う授業に取り組んだ教職員が70%未満	3	4 「授業中に問題を読んだり、聞いたりして、より分かるように考えている。」と答えた児童が90%以上 3 「授業中に問題を読んだり、聞いたりして、より分かるように考えている。」と答えた児童が80%以上 2 「授業中に問題を読んだり、聞いたりして、より分かるように考えている。」と答えた児童が70%以上 1 「授業中に問題を読んだり、聞いたりして、より分かるように考えている。」と答えた児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的に興味をもちやすい教材を用いるなど、授業に工夫がみられる。 対話を中心に据えた授業が行われており、その成果として児童が「読み」「書き」「考える」力を継続して高められているのではないかと。 児童は真面目に授業を受けている。集中できる環境である。 	
	教職員の挑戦 目指す学校像に向け、チームとして挑戦し、成長を実感する	集団性とかかわり合いを重視する。	<ul style="list-style-type: none"> 学級・学年・異学年・地域との学び合いや交流活動を通して、自己のよさに気付いたり、自己の能力を伸ばしたりできるよう指導する。 教職員の児童理解力、集団マネジメント力を向上させ、自分や互いの良さに気づかせるとともに、より良い対人関係・コミュニケーションのあり方を学ばせる 	4	4 かかりを通して友達のをよきを見付け、伝え合い、互いを認め合い、高め合う関係をつくることに取り組んだ教職員が90%以上 3 かかりを通して友達のをよきを見付け、伝え合い、互いを認め合い、高め合う関係をつくることに取り組んだ教職員が80%以上 2 かかりを通して友達のをよきを見付け、伝え合い、互いを認め合い、高め合う関係をつくることに取り組んだ教職員が70%以上 1 かかりを通して友達のをよきを見付け、伝え合い、互いを認め合い、高め合う関係をつくることに取り組んだ教職員が70%未満	3	4 「学校や普段の家庭生活で自分のよさを見付けた」と答えた児童が90%以上 3 「学校や普段の家庭生活で自分のよさを見付けた」と答えた児童が80%以上 2 「学校や普段の家庭生活で自分のよさを見付けた」と答えた児童が70%以上 1 「学校や普段の家庭生活で自分のよさを見付けた」と答えた児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> 友達の良さを発表し、シールを貼って掲示する等、日々の取組の工夫が素晴らしい。それが自分の良さに気付くことにもつながる。 「たきあいステージ」等、児童が主体となる機会は、自己の能力を伸ばすことにもつながると思う。 友達の良さに気付ける子は優しい子。まずは自分を好きになってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、校内研究で『つながる気持ち、深まる学び～伝え合う力を育む指導を通して～』をテーマにUDの視点から国語科を中心に対話を通した深い学びについて進めてきた。来年度も引き続き研究を進めていく。 今後も児童が自他の良さを認め合う取組や自己表現できる場を設け、児童が安心して自己を表現できる集団風土を醸成していく。
みんなの多様な学びとあわせをつくる	インクルージョン 自分と他者の多様な個性を認め合い、みんなが安心して表現し、失敗を恐れず挑戦する	すべての“いのち”を守り、輝かせる。	<ul style="list-style-type: none"> 特別の教科道徳、特別活動、総合的な学習の時間を中心に、児童が互いの多様性を尊重し合い、自尊感情を維持・向上させる教育の一環として、「いのちの授業」を実施する。 	4	4 学期に1回以上「いのち」をテーマにした時、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教職員が90%以上 3 学期に1回以上「いのち」をテーマにした時、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教職員が80%以上 2 学期に1回以上「いのち」をテーマにした時、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教職員が70%以上 1 学期に1回以上「いのち」をテーマにした時、児童の自己肯定感が高まったりする授業に取り組んだ教職員が70%未満	4	4 「自分や周りの人を大切に生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が90%以上 3 「自分や周りの人を大切に生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が80%以上 2 「自分や周りの人を大切に生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が70%以上 1 「自分や周りの人を大切に生活しようとする気持ちが高まった」と答えた児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> 児童の人への思いやりの高まりがみられる。児童も教員から見守られていると感じているので安心感があるのではないかと。 学校の長期休業中の飼育動物の対応をコミュニティ・スクールで議論し保護者・地域への協力のもと飼育動物のいのちを大事にすることができた。 「すべてのいのちをまもる」という目標に対して成果が出ている。 	
	居場所・活躍 子供たち全員の居場所と活躍の機会を支える	児童一人一人を大切にしたい温かい学級集団をつくり、認め合う力、自己肯定感、自己開示力、対人力、豊かな感性・創造性を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 校内体制を生かした不登校対策を行い、関係機関と連携を図る。 年3回「生活アンケート」、5年生「SCによる全員面談」、4年生「虐待防止授業等」や日常の児童の表情やつぶやきから不安を受け止め、迅速に組織的に対応する。 	2	4 全員の教職員が、いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、迅速な対応を行った 3 いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、迅速な対応を行った教職員が95%以上 2 いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、迅速な対応を行った教職員が90%以上 1 いじめアンケートの丁寧な聞き取りと分析、迅速な対応を行った教職員が90%未満	4	4 友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が90%以上 3 友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が80%以上 2 友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が70%以上 1 友達にいじめや意地悪なことをせず、仲良くすることができた児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> 小さないじめを見逃さない学校全体での取組が成果に表れていると思う。 学校全体での共有を継続していったほしい。 仲良くすることはもちろん大事だが、自分の気持ちや話せるような関係性が構築できていくことを願う。 児童の悩みやトラブルに対し、教員は児童に向き合っており対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員がいじめに対して学校として組織的に対応することを実践しており、いじめの早期発見、早期対応につなげることができた。いじめの兆候ではなく、「いじめ」であること、人権侵害はいじめではないことであることを、全教職員で繰り返し児童へ指導をしていく。 児童が「困っていること」を伝えられる取組を継続していく。
社会と未来に開き、みんなのできる	対話・協働 自分たちで考え、語り合い学び合い、対立を乗り越え協働する	「対話力」の向上と充実を図り、児童が主体的に学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究（国語科）を核として、児童が主体的に学ぶ授業改善を行い、「対話」を大切に学習を展開する。 児童が集団活動に自主的、実践的に取り組む中で、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、合意形成する経験をさせる。 	2	4 授業を中心とした全教育活動での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教職員が90%以上 3 授業を中心とした全教育活動での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教職員が80%以上 2 授業を中心とした全教育活動での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教職員が70%以上 1 授業を中心とした全教育活動での対話的活動を通して、児童の課題解決力・表現力の向上に取り組んだ教職員が70%未満	3	4 「自分の考えをもち、すすんで話ることができた。」と答えた児童が90%以上 3 「自分の考えをもち、すすんで話ることができた。」と答えた児童が80%以上 2 「自分の考えをもち、すすんで話ることができた。」と答えた児童が70%以上 1 「自分の考えをもち、すすんで話ることができた。」と答えた児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> 学級での机の配置など、意見が出やすい雰囲気づくりが見受けられる。 対話を大切にして、学校全体で取り組んでいる。繰り返し児童に伝えていこうと思う。 児童が日常的に対話力を使っているが、教員は、まだ児童のために授業改善ができるという意識が、評価に表れているのではないかと。継続した取組が軌道にのっていると感じる。 	
	多様な参画 様々な当事者から応援され、多様な人材が活躍する	地域と協働して、地域をステージとした学びを充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 生活科・総合的な学習の時間にて地域人材や地域環境を活用した体験的な学習を重視する。 コミュニティ・スクールの利点を生かして、地域と協働し、地域をステージとした主体的に対話的な深い学びを創造するとともに、学校環境（畑、田んぼ、芝生、ピオトープ等）を生かした活動や学習をする。 	3	4 地域人材と連携を図り、学習活動に取り組んだ教職員が90%以上 3 地域人材と連携を図り、学習活動に取り組んだ教職員が80%以上 2 地域人材と連携を図り、学習活動に取り組んだ教職員が70%以上 1 地域人材と連携を図り、学習活動に取り組んだ教職員が70%未満	3	4 「地域の方と一緒に地域や学校環境を生かした学習に取り組むことができた。」と答えた児童が90%以上 3 「地域の方と一緒に地域や学校環境を生かした学習に取り組むことができた。」と答えた児童が80%以上 2 「地域の方と一緒に地域や学校環境を生かした学習に取り組むことができた。」と答えた児童が70%以上 1 「地域の方と一緒に地域や学校環境を生かした学習に取り組むことができた。」と答えた児童が70%未満	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方の多様な場面での関わりが児童に安心感を与え、良い雰囲気をつくり出していると思う。 芝生イベントでは、多くの活動がされていた。地域の方が改めて地域の中にある学校の存在、可能性に気付き始めていたと感じた。つながった人材を児童の学びにいかす働きかけを継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習等で児童が主体的に参加して取り組むことができるよう、日頃からの教員と児童との信頼関係が大切である。担任が児童一人一人に向き合い、受容的な態度で接すること、また、教室環境の工夫により学級が安心の場となるようにすることを継続する。多様性の尊重、互いに認め合う支持的な風土を大切にしていこう。 学習活動に地域人材や地域の環境を生かし、児童が主体的に関わる体験的、実践的な学習を継続していく。 コミュニティ・スクールの利点を生かし、芝生管理委員会、PTA、育成会、防災会、自治会等の多くの方が企画や運営に携わり、多くの児童・保護者・地域の方の参加・協力がある。これらも発展的に継続するよう取り組んでいく。

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。